

## 平成27年度 第2回 新潟市立亀田図書館協議会

日時：平成28年3月2日（水）午後1時30分～

会場：亀田地区公民館 講座室1

### 次第

1 開会

2 館長あいさつ

3 議事

(1) 報告事項

① 平成27年度の報告

(資料1～4)

② 平成28年度計画について

(資料5～7)

(2) 協議事項

(3) その他

4 閉会

出席者 委員：佐藤委員 遠藤委員 柳委員 捧委員

服部委員 村山委員 (計6名)

(欠席：比企委員 石塚委員 田村委員)

事務局：横山館長 佐藤主任 小松原主査

傍聴者 1名

■ 平成 27 年度 第 2 回 新潟市立亀田図書館協議会

日 時：平成 28 年 3 月 2 日（水）午後 1 時 30 分～

会 場：亀田地区公民館 講座室 1

（司 会）

皆様、本日は、お忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。定刻を少し過ぎましたが、これより平成 27 年度第 2 回新潟市立亀田図書館協議会を開催いたします。

本日、進行させていただきます、亀田図書館の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日、机の上に置いております資料の確認をお願いいたします。皆様は、すでに郵送の資料をお持ちいただいたと思うのですが、本日、追加で次第と名簿、席次、資料 1－①の差し替え、そして「ブックスタートアンケート結果報告書」をお配りしております。そのほかに、新潟県図書館協議会報を 3 部、平成 27 年度の亀田図書館文化講演会記録集についても配付しております。ご確認ください。

それでは、本日の会議ですが、石塚委員、田村委員から欠席の連絡をいただいております。今現在、比企委員についても出席いただいております。遠藤委員については、これから来られるそうです。現在の出席委員は 5 名です。新潟市立図書館協議会運営規則第 4 条、会議の成立に委員定数の半数以上とありますので、会議は成立となりますことを報告いたします。

なお、会議におきましては、発言を記録させていただきますので、ご了承ください。また、本日の会議は傍聴することができます。現時点では傍聴者は 1 名です。傍聴者の方は、新潟市立図書館協議会の傍聴に関する要領に従って傍聴していただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、亀田図書館長の横山よりごあいさついたします。

（館 長）

本日は、お忙しい中、ありがとうございます。また、寒い中、ご足労いただきました。

今年度は、開館 4 年目となりまして、中心館としてのさまざまな事業を行ってきました。名実ともに中心館になりつつあるのではないかと感じておりますが、その辺、ご報告をされるとともに、また来年度の事業に向けまして、ご説明したいと思っております。皆様のご意見等をちょうだいしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（司 会）

それでは、これより、議事進行は、会長より行っていただきます。佐藤会長、よろしくお願いいたします。

いたします。

(会 長)

よろしく願いいたします。

では、議事に入りたいと思います。(1) 報告事項、平成 27 年度の報告を事務局、お願いいたします。

(館 長)

それでは、今年度の報告事項につきまして、資料 1 から 4 につきまして、一括で説明させていただきます。まず、資料 1 - ①をご覧ください。本日、差し替えさせていただいた資料となります。皆様にお送りしたものとしましては、今年度の合計等が入っていない状態でお送りしてしまいました。昨年度との比較ができない状態のものをお送りしまして、大変申し訳ございませんでした。本日の差し替え資料をご覧くださいと思います。

今年度 1 月末までの統計になりますけれども、入館者数、貸出人数、貸出冊数、下の段に行きまして、予約冊数、情報コーナーの利用者数。いずれも昨年度よりも現時点で多くなっているということでありまして、開館から右肩上がりに利用が伸びている状態です。それがまだ今現在も続いているという状態です。皆さんに利用していただける図書館であるかなと思っています。

ずっと永年、登録率がというお話をしているのですけれども、やはり相変わらず、登録者数は前年を下回った状態です。市全体としましては、貸出冊数等の利用が少なくなっている中、亀田図書館は大健闘していると思っています。

はぐっていただきまして、大きな資料となってしまうかもしれませんが、地区図書室の利用状況について、ご説明させていただきます。大きな表ですけれども、一番下の段を見ていただきたいと思います。計のところ。これも 1 月末現在での数字なのですけれども、曾野木、両川で昨年度に比べまして、利用が伸びている、貸出冊数が多くなっております。両川に至りましては、予約の件数が昨年度と比べまして、倍になっているという状況で、両川地区の皆さんには、地区図書室をよく利用していただいております。後ほど、説明もさせていただきますけれども、地区図書室につきまして、改革が必要であると市全体で考えているところですので、これについても、後ほど、ご説明させていただきたいと思います。中心館である亀田を含め、地区図書室の利用も多くなっているというところで、大変喜んでおります。

さらに資料 2 をご覧いただきたいと思いますが、こちらは今年度の事業報告となります。定例の「おはなしのじかん」が 1 ですけれども、昨年度の参加者が昨年度の 3 月末までで 216 人でしたので、1 月末現在で、昨年度を大幅に超える参加者であったということです。残念ながら、それに比べまして、職員によるお話の時間が落ちているという状態です。ボランティアの

皆様には、本当に熱心に読み聞かせをやっていただいております、参加者が年々増加している状態です。ボランティアの方には感謝申し上げます。

2の「春の読書週間事業」ですけれども、「この本だいすき！」ということで、自分が読んでおもしろかった本をみんなに紹介してくださいということで、用紙に書いてもらって、掲示をしました。それが69枚ということで、昨年度は39枚でしたので、こちらも大幅に参加して下さる方が増えたということです。「おはなしのじかんスペシャル」につきましては、今年度は6回、合計で52人の参加がございました。うち1回が共催ということになっております。昨年度は4回で34人の参加となっております。こちらも増えているということで、うれしく思っております。

はぐっていただきまして、4ページですけれども、3の「アスパークまつり」、昨年引き続き6月7日、共催で実施いたしました。お話の時間スペシャルを実施しましたが、昨年度は19人の参加でしたが、今年は32人ということで、こちらも大変多くの方に来ていただきました。しおりのプレゼントをしましたけれども、300枚、用意しましたが、午後1時にはすべて配布終わりました。

4「夏休み事業」の「体験しよう！図書館のしごと」ということで、7月28日、午前と午後と2回、実施いたしまして、計4人に体験してもらいました。昨年度は1回の実施で2人の実施のみでした。こちらも好評でした。昨年度は江南区の子供たちは1人もいなかったのですけれども、今回は、江南区の子供たちに体験してもらうことができました。「UXアナウンサーによる絵本の読み聞かせ」、その下の「外国人による絵本の読み聞かせとその国の遊び」ということで、UXのほうにつきましては、今年初めての実施となりましたけれども、親子30人の参加でした。「外国人による絵本の読み聞かせとその国の遊び」ですが、昨年も実施しましたが、今年も親子5組ということで、10人の参加でした。いずれも、共催事業となっております。

5の「秋の読書週間事業」ですけれども、「なじらね？この本」につきましては、195人の参加がありました。春と同じように読んでおもしろかった本を紹介してもらったということです。

「保存期限の切れた雑誌をお譲りします」、10月25日に実施いたしました。136人の方においでいただきまして、計786冊の雑誌をお譲りいたしました。11月1日には、例年行っております、俳句に関する文化講演会ということで、今年度は、金森敦子先生においでいただきました。

77名の参加ということでした。こちらも好評でした。その下、「中学生による俳句作品展示会」、11月5日から11月26日まで、会場を江南区郷土資料館で展示会を行いました。昨年度は、73首、お借りできましたけれども、今年は99首ということで、来場者も昨年度は1,000人に満たなかったのですけれども、今年は1,061人ということで、こちらも来場者数が増えています。その下は、「ボランティアによるおはなしのじかんスペシャル」ということで、全部で8回、99

人の参加がありました。昨年度は7回の開催で62人の参加でしたので、こちらも参加者が増えているという状況です。

6「テーマ展示」につきましては、個々にどういったことをということ、ここには書かなかったのですが、一般閲覧室、こども図書室とプチ展示というものもありますけれども、おおむね二、三か月ごとに展示会を行っておりまして、やはり展示をしたものにつきましては、利用が多くなっていると思っております。③特別コレクション室につきましては、一回、全部、展示が終わりまして、1月からまた1番に戻ってということで、展示をしております。

続きまして、はぐっていただきまして6ページですけれども、7の「配架・書架整理ボランティア」の参加ですけれども、述べ257人の方に参加していただいております。こちらは1月末までの人数となっております。昨年度に比べますと、若干減っているかなという気がしております。

8の「体験学習・ジョブトレ受け入れ」ということですが、今年度は4校からそれぞれ2名ずつ体験学習に来てくれました。ジョブトレ生は、成人でひきこもりがちな人に仕事に慣れる前の訓練のために受け入れをしていますけれども、2名がジョブトレ生として来てくれましたけれども、そのうちの1名は、無事就職をして、今現在、継続中だというお手紙をもらいました。こちらも大変うれしいことだと思っております。その下の近畿大実習生ということですが、こちらは図書館の司書資格を得るために、亀田図書館で実習をしたということで、いずれは市の図書館司書として活躍してくれるものと思っております。

9「施設見学・視察受け入れ」ですが、9団体の76人でした。

10から15まで、四角で囲ってあります事業につきましては、今年度、初めて実施したものです。読み聞かせボランティア養成講座ということで、大淵小学校の捧先生には、大変ご尽力いただきまして、開催させていただきました。12人、参加していただきました。その後のブックスタートボランティア養成講座にも、引き続き、この方たちが参加していただきまして、来年度、ブックスタートのボランティアとして、また活動していただけるということで、返事をいただいておりますし、また亀田図書館で実施しています、「赤ちゃんタイムおはなしのじかん」でも、月1回、お話に来てくださるということで、広がっていくのがうれしいことだと思っております。亀田東小につきましても、7人ということで、同様に今、お声がけが滞っているのですが、引き続き、お声がけしていきたいと思っております。

11の「赤ちゃんタイムの実施」ですけれども、赤ちゃんタイム自体は4月からやっているのですが、赤ちゃんタイムおはなしのじかんというのは今年の5月からの実施でした。1月末までで75人の参加となっております。来年度は、また1回増えるということで、大勢の参加が見込まれると思います。

12「子育て応援コーナー設置」ということで、子ども図書室内に未就学児の子育てに関する本のコーナーを設けてあります。こちらも利用者数を出すのが難しいのですが、カウンターにいと子育て応援の本が返されるということが多いため、こちらも利用があるのだと感じています。

7ページの13「ブックスタート事業の実施」ということですが、ブックスタート事業につきましては、1歳児健診、歯科健診のときに、健康福祉課と共同で子供たちに1冊ずつ絵本をプレゼントし、親子の絆や読み聞かせの大切さ等についてお話をさせてもらっています。亀田健康センター、横越健康センター、曾野木健康センターで計24回実施いたしました。ここで、本日、お配りしましたブックスタートアンケート結果報告書というものをご覧いただきたいのですが、これは、平成27年8月から10月までの3か月、ブックスタートに来てくれた方にアンケートを取ったものになります。

ページの5というところを見ていただきたいのですが、1、「ブックスタート」の参加状況ということですが、江南区では、8割強82.2パーセントの人が受けたと回答しておりますが、市全体としては86.2パーセントということで、若干、少なめ、受診率が低いなと思っています。転勤がちな世帯は、どうしても参加が少ない、低くなりがちだと思っているのですが、でもそんな転勤族の多いところでもないのになと思いつつ、江南区は低いなと思っているところですよ。

2、1歳での「ブックスタート」の実施時期ということについて、おおむね8割以上の人が「適当」だということで、回答いただきました。

6ページ、3、家庭内で子どもに絵本を読む頻度ですが、四角で囲ってありますように、読む頻度は「週数回」と「ほぼ毎日」の頻度の二分されていまして、全体で9割の人が「子供に絵本を読んであげています」という回答でした。江南区では、市全体から比べますと、若干低いかと感じます。

4、「ブックスタート」が絵本を読む‘きっかけ’になったかという問いに対しましては、5割を超える人が「ブックスタートがきっかけになった」と答えていますが、江南区ではこちらも少し低い数字となっております。

7ページ、5、子どもと一緒に「図書館」利用状況ですが、これを特に注目してもらいたいと思いますが、江南区では46.6パーセントが「子供との図書館利用をしている」ということで回答してくれています。市全体よりも多い回答となっていて、ファミリーでの利用が多いということの証かなと思います。

6は、5で「はい」と答えた人だけなのですが、お子さんと一緒に「図書館」利用頻度ということで、図書館利用頻度につきましては、全体で65.5パーセントが、江南区では「週

に数回」、あるいは「月に数回」利用しているということで、市全体よりも10ポイントほど高くなっています。いかにファミリーでの利用が多いかということなのだと思います。

8 ページ、7、「図書館の読み聞かせ」への参加状況ですけれども、こちらが江南区では34.5パーセントが「ある」という回答で58.2パーセントが「ない」、「知らなかった」というのが3.6パーセントになっております。市全体から比べますと、若干低いかないところですが、まだまだPRが足りないのだと感じています。

8、「図書館の読み聞かせ」への参加意向につきましては、67.6パーセントの方が「希望がある」ということで、ニーズがあるということですので、もっとPRを一生懸命しなければいけないのだなと思っています。ポイントとしては、新潟市全体より大変高い数字となっています。

9 ページ、9、お子さん名義の「図書館貸出カード」の所有につきましては、図書館貸出カードの所有割合は3割ありまして、新潟市全体とほぼ同程度の人が所有しているということです。

10、ゼロ歳からつくれる「図書館の貸出カード」の認知ということですが、江南区では52.7パーセントの人が「知っている」ということで、市全体よりも知っている人は多いということです。

10 ページ、11、お子さんと一緒に「図書館」を利用しない理由ということで、そこにいろいろ書いてありますが、一番多いのが「忙しくて行けない」。その次が、「うるさくすると悪い」ということになっていますけれども、そのために赤ちゃんタイムというものを設けていますし、赤ちゃんタイム拡充の方向でもありますので、ぜひともこちらについても、PRを十分にしてお子さん連れの方たちの利用をさらに増やしていきたいと思っています。ブックスタートにつきましては説明は、これで終わりにさせていただきます。

もとに戻っていただきまして、7 ページ、14、行政書士無料相談会を今年度、初めて実施いたしました。5月19日、午後2回実施したわけですが、こちらでも好評でしたので、平成28年度も実施の予定になっております。

15「ビジネス支援セミナーの実施」も9月17日に江南区文化会館多目的ホールで実施いたしました。参加者が12人ということで、アンケートを取りましたけれども、こちらでも大変、好評をいただいております。できるならば、継続して実施していきたいと思っております。

1月末までの事業が以上となりますが、今、今年度初めての取組みとして、まちゼミというものをやっております。こちらは産業振興課から声をかけていただいて、参加しているものですが、商店街の各お店で、そのお店ならではの講座を実施するというので、図書館では講座に関連する図書に紹介文をつけて、ブックリストというものを作成して、お配りしています。ということで、今年度の事業につきまして、ご説明いたしました。

8 ページ、資料3 ですけども、第1 回の協議会のときに、皆様からお寄せいただきました、平成26 年度の亀田図書館の評価ということでございます。おおむね大変評価する、ある程度評価するというので、評価いただいております、ありがたいことだと思っています。8 ページの学・社・民融合型図書館というところで、ブックスタートの実施というものがございますけれども、中央図書館と協力して実施というのが、館の重点評価項目でありまして、完全には平成26 年度の段階では、亀田図書館が引き継いで実施するとは至っていなかったということで、評価できないという評価を4 人の方からいただきました。今年度半ばから中央から完全に引き継ぎをしまして、来年度は亀田図書館所管で実施する予定になっております。

9 ページも大変評価する、ある程度、評価するという評価をいただいております。その中で、下から二つ目、パートナーシップ型図書館というところで評価できないというようにいただいたものが1 点ございます。実情に合った目標値にすることが必要ということで、貴重なご意見でございまして、次年度は考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

説明の最後となりますけれども、今年度、図書館へ寄せられた市民の声ということで、市全体の「図書館へのたより」の受理件数が出ておりますが、亀田図書館では合計6 件いただいております。それぞれ図書館資料に関すること、施設設備に関すること、図書館の運営に関すること、その他ということで、分けさせていただいております。ということで、ご覧いただければと思います。

以上で、今年度の報告をさせていただきました。

(会 長)

それでは、事務局の説明で、質問や意見があればお願いいたします。

(捧委員)

大淵小学校の捧でございます。先ほどの読み聞かせボランティア養成講座の話がありましたが、大変、私ども、喜んでおります。地域の方も、新しい自分たちのボランティアの場所ができたし、いずれかは学校のほうにもということで、まずは自分たちでスキルを積んでいって、学校の中でもやっていきたいという希望をお持ちですので、また今後ともご指導いただける機会がありましたら、ぜひお願いいたします。

(館 長)

こちらこそよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(村山委員)

今後、学校で読み聞かせをやるのですか。

(捧委員)

今後、そういうことも視野に入れて。

(村山委員)

10 ページの図書館に寄せられた市民の声、④その他のペット連れと匂いのキツイ人がというその後の話を聞かせてください。結果というか、どのような対応をしたか。

(館 長)

その他の一つ目、短時間ならペット連れで入館させてほしいというものですけれども、いろいろな方が利用しますので、不測の事態ということも考えられますので、ペット連れはご遠慮いただきたいということで、ご本人にお話をさせていただきました。

(村山委員)

キャリーバッグを使ってもだめですか。小さい犬だとキャリーバッグで持っている人がいますよね。

(館 長)

完全に閉じ込めてということであれば、それは出られないようになっているということであればいいかと思えますけれども、それこそ赤ちゃんからお年寄りまで利用する施設ですので、やはりなるべくでしたら、ご遠慮いただきたいと思えます。みんながペット好きというわけではないのです。

二つ目の匂いのキツイ人がいるのでインターネットコーナーをという、これに関しましては、匂いにつきましては、ついたてを立てましても、遮断することはできないので、お互いに気をつけないとだめですねということで掲示をするしかないかなということで、今現在、張り紙をしてあります。

(村山委員)

掲示してあるのですか。

(館 長)

いえ、そういう回答をして。

(柳委員)

両川中学校の柳ですが、登録者数のことなのですが、これは1回、登録すれば何年も有効なのですよね。

(館 長)

はい、4年に一回、更新をしていただいていますけれども、ここに上げてあります登録者数は新規の登録者ということになります。

(柳委員)

そうすると登録が広まれば、次の年は少しずつ落ちてくるということを考えられるわけです

ね。

(館長)

そうです。

(柳委員)

もう一点は、登録イコール貸出カードと考えていいのですか。

(館長)

そうです。

(柳委員)

そうすると先ほど、お子さんのカードは、市の平均並みだという結果が出ていましたが、そうすると大人の登録者、カード作成者が江南区は市に比べて低いと考えていいでしょうか。

(館長)

そうだと思っています。やはり公共交通が不便だったりしますので、車を運転されない高齢者の方には利用しにくいということで、登録をされていない高齢者の方が数多くいるということではないかと思っています。

(柳委員)

ありがとうございました。

(村山委員)

登録者数については、ずっと数字を見ているのだけれども、確かに低いだけれども、伸び率はすごいですね、亀田の場合は。私はこう考えているのだけれども、ここの数字の登録者数の合計が1,115。新規ですから、1年間にやめた、やめない人がいますから、その累計だと亀田は8,000人近くいるのですよね。だから、中央図書館の中でも、下なのだけれども、そんなに格差がないのです。

(柳委員)

そのように考えると。

(村山委員)

考えておくといいみたいですね。がんばっていると思います。でも、数字と比較すると弱いところはありますね。

(館長)

新潟市全体の中では、江南区の登録率は低いほうです。

(会長)

ほかにはいかがですか。では、続きまして、また事務局のほうから平成28年度の計画についての説明をお願いいたします。

(館 長)

それでは、平成 28 年度の亀田図書館の運営方針と主な取り組みということで、お話しさせていただきます。資料 5 の 11 ページですが、ほとんど今年度と変わりのない状態となりますけれども、例年どおりですが、四角に囲ってありますところが、新潟市全体の図書館のビジョンになります。図書館運営の理念、そして新潟市の目指す図書館像。効率的、効果的な運営を目指してお読みいただいているかと思しますので、割愛します。

亀田図書館としましては、四角の下の「新潟市の目指す図書館像」ということで、ネットワークを活かした「課題解決型図書館」、身近な生活上の課題解決を手助けするレファレンスの充実ということで、今年度と同様、継続していきたいと思います。

2 特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」としまして、江南区に関する地域資料の積極的な収集、俳句資料の積極的な整理と収集。いずれも継続していきたいと思っております。

3 子どもの読書活動を推進する「学・社・民融合型図書館」ということで、子育て支援事業の実施、学校との連携、「おはなしのじかん」の実施、読書週間行事の実施、公民館や郷土資料館との共催事業の実施、ぷれジョブや職場体験の受入。いずれも継続ということやっていきたいと思います。

はぐっていただきまして、4 市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」ということで、図書館協議会の定例会、配架・書架ボランティアの受入、公民館や郷土資料館への資料提供や情報提供、他機関との協働事業の推進ということで、こちらも継続して実施していきたく思っております。

次の「効率的、効果的な運営を目指して」というところですが、1 の資料・情報の収集ですけれども、今年度から中央で実施しています選書会議へ参加していますので、こちらも引き続き、選書会議へ参加したいと思っております。

2 図書館広報の充実。これにつきましては、広報紙の発行ということで、年 4 回、発行しておりますが、これも継続して実施していきたく思っております。

番号が 4 となっておりますが、3 です。3 の職員研修の充実ということで、こちらも各種研修への参加を継続して行っていきたく思っています。

次に、○各館の特色ということで、各中心館の特色について書いてありますけれども、亀田図書館としましては、特別コレクション室を活用した展示や講演会の実施。俳句資料の整理と収集ということで、こちらも継続して実施していきたく思っております。

(事務局)

資料 6 を説明させていただきます。平成 28 年度の亀田図書館分の当初予算です。平成 28 年度の隣に平成 27 年度予算を載せております。亀田図書館の平成 28 年度当初予算総額は 1,902

万5,000円となっており、平成27年度に比較して126万3,000円の減となっております。新潟市全体として、予算が削減されておりますので、図書館においても同じ状況となっております。その中で、下から2番目にあります資料購入費は、亀田図書館が新設移転し5年間、資料購入費を確保するという計画になっておりますので、図書館全体の資料購入費につきましては、3,000万円弱の減額になっております中で据え置かれております。ほかの区の状況につきましても、下の参考のところに載せておりますのでご覧ください。予算の説明につきましては、以上です。

(事務局)

次に、資料7について、説明いたします。平成28年度亀田図書館事業計画となっております。

1おはなしのじかん(定例会)につきましては、平成27年度と同じものを計画しております。児童につきましては、「ボランティアによるおはなしのじかん」また「職員によるおはなしのじかん」を計画しております。ボランティアによるおはなしのじかんにつきましては、備考欄にごございます四つの団体の方々にご協力をいただいております。ありがとうございます。実施回数につきましては、こちらのほうに書いてございます、24回がボランティアによるおはなしのじかん、職員によるおはなしのじかんにつきましては11回となっております。合計35回を予定しております。

続きまして、2春の読書週間事業につきましてご説明いたします。こちら、児童から一般向けを対象としております「るーぽん！おすすめの本」です。こちらにつきましては、子供の方、もしくは大人の方にご自身のおすすめの本を1枚の用紙に書いていただいて、紹介していただくという事業になっております。こちらの開催日等につきましては未定です。また、児童向けの事業といたしましては、「おはなしのじかんスペシャル」を検討しております。こちらにつきましては、1のお話の時間というものにつきましても、内容は同じなのですが、日程につきましては、また未定となっております。

3アスパークまつりです。こちらは6月5日(日)と日程が確定しております。図書館の中で行う事業につきましては、現在、未定となっております。

4夏休み事業についてご説明いたします。児童を対象としたものにつきましては、「体験しよう！図書館の仕事」ということで、小学生の方を対象といたしますが、日程はまだ未定なのですけれども、図書館の中でカウンター業務の体験ですとか、本棚に本を返す業務の体験などを予定しております。また、こちらにつきましては、平成26年度以前から継続しているのですが、「ボランティアによるむかし語り」ということで、そういったものを日程はまだ未定なのですが、計画しております。ただ、今年度、行いましたUXのアナウンサーの読み聞かせですとか、外国の絵本の読み聞かせにつきましては、まだ調整中となっておりますので、実施に関しては、

まだこちらのほうには記載しておりません。

一枚はぐっていただきまして、5秋の読書週間事業についてご説明いたします。児童から一般についての事業といたしましては、「なじらね？この本」という事業を計画しております。こちらは、新潟市全体の事業でございまして、やはり一般の方ですとか、児童の方につきまして、おすすめの本を一枚の用紙に書いていただきまして、紹介していただいたものについて、図書館の中の掲示をいたします。それが気に入って見た方につきましては、用紙にシールを貼っていただくという投票も兼ねたような事業となっております。また、一般向けなのですけれども、「保存期間の切れた雑誌をお譲りします」ということで、こちら毎年、行っております。2年間の保存期間の切れた雑誌につきまして、多目的ルームのほうで配布を行っております。こちらが11月20日（日）の予定です。また、引き続きまして、一般の対象向けなのですが、文化講演会ということで、毎年、俳句をテーマに文化講演会を行っております。日程は、11月23日（水）多目的ホールとなっております。講師の方につきましては、現在、調整中となっております。また、一般向けが対象になりますが、「中学生による俳句作品展示会」を11月3日（木）から11月24日（木）まで計画しております。こちらにつきましては、本年度と同じなのですが、江南区郷土資料館の中で展示を行う予定となっております。また、乳幼児の方からなのですけれども、「ボランティアによるおはなしのじかんスペシャル」を計画しております。こちらにつきましては、日程は未定となっております。

6テーマ展示のご説明をいたします。①一般閲覧室につきましては、年に6回から7回、テーマを決めて展示をする予定となっております。また②こども図書館につきましても、年に6回から7回、テーマを決めて展示をする予定となっております。③特別コレクション室につきましては、年4回なのですけれども、一般の方を対象にしまして、「江南区のいしぶみ散歩」ということで、江南区には大変石碑が多く点在しておりまして、その中でも俳句を彫ってある石碑につきましてまとめたものが、亀田図書館としてございますので、そういったものを年4回、展示替えを行って、ご覧いただいている期間で展示を行う予定としております。また④プチ展示につきましては、その時事にあわせて実施をするということで、こちら年10回程度、大体、ほぼ月1回なのですけれども、展示替えを行って、展示をする予定となっております。

次のページをご覧ください。7配架・書架整理ボランティアをご覧ください。こちらは一般の方を対象としております。配架・書架整理ということで、こちらのボランティアの活動になりますが、金曜日の図書館休館日を除く午前9時から10時ということで活動をしていただいております。来年度も、こちらを継続の予定です。

8体験学習・ジョブトレ受け入れにつきましても、小学校や中学校につきまして、体験学習の申込があった場合ですとか、ジョブトレにつきましても、サポートセンターから依頼があり

ましたら、受け入れを随時、行っております。

9 施設見学・視察の受け入れにつきましても、江南区文化会館がグッドデザイン大賞を関係もありますので、施設を見学、特に建築関係を勉強していらっしゃる方に多いのですが、施設を見学したいとか、写真を撮りたいということがありますので、そういった場合は、随時、対応しております。

10 赤ちゃんタイムの実施です。こちらは毎週水曜日午前 10 時から午後 1 時ということで、子ども図書館内で行っております。特にその中で児童を対象としておりますが、「赤ちゃんタイムおはなしのじかん」ということで、こちらは来年度から一コマ増やしまして、毎月第 2 を追加いたしました。従来から行っている第 4 水曜日のお話の時間と合わせて月 2 回なのですけれども、午前 10 時半から 11 時までということで、備考欄のところを見ていただければ分かるのですが、今まで「えほんだいすき！！」だけだったのですけれども、大淵小学校で活動していらっしゃいましたボランティアの方々にも、来年度からこちらに入っていただいて、実施回数につきましては、現在、23 回を予定しております。

11 をご覧ください。行政書士無料相談会の実施ということで、こちらは一般の方を対象にいたしますが、5 月 17 日（火）ということで午後ですけれども、二コマ、講座室 2 で開催する予定となっております。

12 ビジネス支援セミナーの実施につきましては、江南区産業振興課との共催事業ということで、年に 1 回、予定をしております。

(会 長)

それでは、事務局の説明で質問や意見があればお願いいたします。

(遠藤委員)

遅れてきて、大変すみませんでした。

今、11 ページで目指す図書館像ということで、1 番目のネットワークの活かし方ということで、レファレンスの充実ということで上げてありますが、資料 1-①を見ますと、レファレンスの数が昨年比べて、ほかの入館数などは増えているのですが、特に減っているという状況があると思うのですが、この充実というのは、どういったことで考えていらっしゃるのでしょうか。

(館 長)

1 月末の数字が大変低い数字になっているのですけれども、昨年度 3 月末までで 672 件、今年度 1 月末までで 405 件ということで、だいぶの開きがあつて、少なくなっているのですけれども、これにつきましては、件数を正しいという字を書いて記録しているのですけれども、窓口が忙しかったりすると、記録を忘れがちになってしまうのですが、実際にレファレンス件数

が、今年度、昨年度と比べて少なくなっているという感じは全くありません。むしろ多くなっているような感じがしていたのですけれども、実際のこの数字を見ると少なくなっているという状況ではあります。レファレンスの充実につきましては、表示を今現在、しているのですけれども、さらに丁寧に説明するというか、利用者に説明することによって、図書館って、こういうことも使えるのだなということを知っていただくということが一番かと思っていますので、そういったことで増やしていけるのではないかと思います。あと記録漏れのないように、何か方法を考えたいと思います。

(村山委員)

今、遠藤さんの意見に関連するのですけれども、私、遠藤さんと話して、はてなマークで、今回、質問しようかと思って黙っていたのだけれども、レファレンスについては、この資料を見ますと1月だけの数字と今回の数字を見ると、確かに昨年の平成26年のレファレンスの合計は672なのだけれども、同じ1か月1月末の数字を見ると、平成26年の1月までは568件。今回は405件と。割り算すると71パーセントなのだけれども、レファレンスという考え方を図書館に聞きたいのだけれども、レファレンスというのはお客様といいますか、図書館の人が言ってくる回数ですよ。こういうものはありませんかとか、こういう考えはどうですか。図書館が売り物にすることではない。レファレンスを売っているわけではないですよ。こういうレファレンスの商品があるから使ってくださいということではなくて、あくまでも図書館は受け身の言葉ですよ。積極的に能動的に、このレファレンスを買いなさいとか、利用してくださいという意見ではないですよ。こういうことについて、図書館全体がなぜこういう評価項目として持っているのですか。要するに活性化しろという意味、コミュニケーションを取りなさいという意味で、こういうレファレンス件数を評価項目で持っているのでしょうか。そういうことを私は考えたのだけれども、そういうことでいいのでしょうか。

(館長)

図書館の仕事の一つとして、調査、研究のための手助けというのがあります。利用者の方たちの調査、研究について、こちらのほうでお手伝いをするということなのですから、そのレファレンス業務について、まだまだ認知度が低いのではないかとということで、もっと図書館では、こういう手助けもしてくれるのだよという広報も含めて、皆さんに知ってもらいたいところで、件数を上げていかななくてはいけないねというところなのだと思います。

(村山委員)

どうも私は、レファレンスというと図書館に来る人たちがこういうことを調べてほしい、こういう本はありませんか、どのようにしたらいいかという問いかけで、こちらから問いかけの質問件数だと思うのです。だから、こういうレファレンスを評価項目にして、件数がこれしか

ないよということをお互いに並べて調べる必要があるのかとは、ちらっと思っているのです。それと反対に情報交換はインターネットの件数も取っているのだけれども、私はインターネットなど使えないもので、こういうものを使えない人と使える人がいるのに、なぜ評価するのかなど、これもはてなと思っているのだけれども、これはあまり興味を持っていないのだけれども。だから今、遠藤さんが言ったように、レファレンス件数は確かに低い。これはあくまでも積極的に図書館がやることなのか。図書館に来る人が、別に用事がなければ黙っているだろうし、積極的に何かコミュニケーションありませんかというように問いかけする必要があるのかと。

(館長)

図書館に調べに来たとしても、職員が声がけしにくかったりすると、自分でばっと図書館の中を見て、ないなということでお帰りになってしまうということもあるかと思うのです。

(村山委員)

だから、図書館職員が図書に関する何か質問ありませんかと、絶えずそんなこと言っていないよね。

(館長)

それもまたじゃまですよ。なので表示をしたりすることで、こういったこともできますよということをお知らせはしているのですけれども、また一回、レファレンスをしてくださった方には、丁寧にお答えすることによって、こういうこともできるのだということで、次回も使っていただけるし、またそのことをほかの人にもお話ししていただくことで、少しずつ広まっていけるかとも思います。一応、図書館の指標の一つで、図書館が認知されているかどうかということになるかとも思います。

(村山委員)

ほかの図書館に比べて、割に亀田低いんだわね。

(館長)

記入漏れが相当あると思っています。一応、書いてねということで、声がけはしているのですけれども、土日、カウンターはごった返していますので、そういうときに記入しているということが、なかなかできない状況であるということだと思います。

(村山委員)

何がレファレンスであるかということは、図書館の人たちは知っているのですか。

(館長)

そうですね。

(村山委員)

言っているのは、カウントすべきレファレンスなのか、この本ないということもレファレンスだと思うのだけれども。

(館長)

こういう本はありますかというものは、皆、レファレンスに入れてはいますが、所蔵確認といって、この本の場所はどこですかということは入れていません。

(会長)

資料のほうについてですが、読み聞かせとか、事業の対象についてですが、資料の16ページのボランティアによるおはなしのじかんスペシャルは、対象が乳幼児になっているのですが、ほかのおはなしのじかんは全部児童対象になっていたり、赤ちゃんタイムのおはなしのじかんも対象が児童になっていたり、そこは乳幼児と書き替えてしかるべきかと思ったのですが。

(館長)

そうですね、児童ではなく、乳幼児からですね、すみません。秋の読書週間行事、4ページ、5ページは乳幼児からとなっているのですが、3ページのほうの春の読書週間行事のおはなしのじかんスペシャルは児童になっていますし、1の定例会のところも児童になっていますので、訂正したいと思います。ありがとうございます。

(村山委員)

私も春と秋は、多分、春は一般で、秋は乳幼児と分けているのではないかと認識していたのだけれども、なぜかという本を別々にしているのではないかというような認識を取っていたのですが、違うのですか。

(館長)

違いますね。対象を分けてはいませんので。

(村山委員)

分けているのかと認識していたので、違うのですね。

(館長)

はい、分けていけませんので乳幼児からとなります。

(柳委員)

単純な興味関心で聞くのですが、ビジネス支援セミナーというのは、どういう内容で、図書館としてどのようにかかわるものなのでしょうか。

(館長)

図書館の事業が大変多岐に渡ってしまっていて、行政書士の相談会について、ビジネス支援についても、その対象になっているということなのですが、ビジネス支援セミナーにつきましては、今年度はロジカルシンキングというテーマでIPC財団のほうから講師の方において

いただいて、講演をいただいたということです。

(柳委員)

講演内容について、産業振興課と一緒に相談しながら、考えるのが図書館の仕事になるわけですか。

(館長)

そこに関連する本を集め、リストを作るというところが一番のかかわりだと思いますけれども、産業振興課のほうからは、広報の部分を担当してもらいました。

(村山委員)

この一番長い地区図書館についてのことを聞きたいのだけれども、今、横山館長は、利用の改善や改革が必要だと述べられましたよね。

(館長)

利用の改革というか、地区図書室全体のあり方です。

(村山委員)

全体のということですが、統廃合ということではないのですか。

(館長)

そこまではまだ全然。

(村山委員)

これを見ると、横越と大江山はものすごく悪いのです。反対に曾野木と両川はいい。これはずっとそういう状態なのですか。数は多いのだけれども、利用率が少ない。両川が倍になっているのは分かったのだけれども、そういうことは考えていなかったのだね。

(館長)

はい、両川地区図書室と曾野木地区図書室を一緒にとか、そういうことは全く考えていません。今までは、亀田図書館がオープンして以来、地区図書室の利用は、年々減っていたのです。でも、今年度は両川と曾野木については利用が増えているというところで注目しているところ です。

(会長)

ほかに質問がないようであれば、次に協議事項に移りたいと思います。事務局、何かございますか。

(館長)

特に協議事項については、今回、ご用意はしておりませんので。

(会長)

では、(3)その他について、事務局からお願いいたします。

(館 長)

その他につきまして、2点ご報告がございます。1点目は、先ほどの地区図書室に関することでございます。新潟市の総務部の中に行政の改革を進める部署としまして、政策改革本部という名称の課がございますが、本年度はここからの提案ということで、地区図書室の有効活用ということが取り上げられました。具体的には、こうするという話は、まだ何も決まっていないので、お伝えすることはないのですけれども、今年度は調査に時間をかけまして、来年度に向けて何らかの提案があると思います。ただし、人もお金もかけない中での改革ということになりますので、どのようになるか分かりませんが、次回の会には、何かお知らせすることができると思います。

二つ目ですが、この3月31日で本協議会の委員の皆様任期が終了いたします。2年間、本当にありがとうございました。公募委員につきましては、これから会議を開きまして、決定させていただきたいと思っておりますし、他の委員の皆様につきましては、今月中に意向確認をさせていただきますとともに、各会からご推薦いただいた皆様には、また各会でご推薦させていただきたいと思っております。ぜひとも、皆様方には継続して、委員となつていただきたいと思いますので、これからも亀田図書館をより市民にとって頼りになります図書館になるよう、お力添えをいただきたいと思います。以上の2点となります。

(会 長)

では、ほかになれば、これで本日の議事を終了いたします。

(司 会)

では、皆様、長い間、議事を大変お疲れさまでした。一応、来年度、次回の第1回の会議の予定、また委員が替わられるところもございますけれども、ご案内しておきます。平成28年7月6日(水)の午前10時から、同じこの場所で予定しております。詳細が決まりましたら、改めてご連絡いたします。

以上をもちまして、本日の図書館協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。